

4. 業況判断の背景について感じていること

(小売業)

- ・大型ディスカウント店は、酒屋である我々の仕入価格よりも安い値段で販売している。
- ・夫婦2人だけの商売で、ともに70歳を超えた。客数は減少しているものの地域の衣料小売店が減少しており、ご年配のお客様の要望に少しでも応えられる店であり続けたいと頑張っている。
- ・消費増税による事務処理の煩雑さが心配である。
- ・休みが定期的にとれない。従業員が確保できない。材料が値上がりする。時期により売上が大きく変動する。
- ・店舗数が過剰。昔の本店法のような規制が欲しい。
- ・従業員が作業に従事できなくなった期間に景況悪化。即対応できる替わりもなく、受注に制限がある。客離れを回避する対策に追われている。
- ・客数の自然減があるが、営業努力により新規顧客を獲得して売上高を維持できている。

(サービス業)

- ・IT化の中で現在の業種で生き残れるか不安である。
- ・従業員（整備士）不足による仕事量の低下。従業員の熱意が感じられない。
- ・お客様の求める商品のニーズに的確に対応できていない。

(建設業)

- ・発注数が少ない。同時期に受注が重なるなどで零細企業には厳しい。
- ・受注件数は増えても利益は、ほとんど変わらないのが現状。
- ・若年層の業界離れが進んでおり、受注に対応できず業績に影響を及ぼしている。
- ・小規模事業者なので事業主が怪我などで労務不能に陥ると極端に業績に影響する。

(製造業)

- ・近年の新築では畳のニーズがほとんどなくなってきている。
- ・メインの取引先が統合され、営業拠点が関西から関東に移ったことから受注量が減少し、売上に影響を与えている。
- ・従業員の確保が難しくなっており、加工賃も値上げ交渉をしているが、うまくいっていない。
- ・臨時従業員の待遇改善など人件費や事務負担の増大が今後の課題。
- ・補助金等での設備投資が増え、市場競争が激しくなりつつあるように感じる。

(卸売業)

- ・販売単価は下がる一方で仕入単価は上がっており採算が悪化している。
- ・半導体関連企業は停滞気味であるが、医療、食料、化学関連企業は生産アップのため設備投資及び改造需要がある。
- ・競合する他社の販売攻勢が売上に影響を与えている。
- ・町内人口減少、オール電化住宅の増加 低価格小売店の増加など業界全体が低迷している。
- ・相場がよくなるまで在庫を抱えている状態。極端に悪い状態ではない。